

日本語教育部門活動報告 2 – 日本語学習支援サイト RAICHO – (2007年4月～2008年3月)

後藤寛樹

1 サイトの概要

「富山大学留学生センター日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」と略記、URLは <http://tisc.isc.u-toyama.ac.jp/>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、留学生センター日本語教育部門が開設しているサイトである。サイト開設のねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点をおいている(ただし、サイト自体は学内外を問わず利用できる)。インターネットはわれわれの生活に深く浸透し、ありとあらゆる情報にインターネットを介してアクセスできるようになった。しかし、インターネット上には膨大な量の情報があり、求める情報を効率よく探し出すためには、この膨大な量の情報の中から必要とするものを取捨選択できる能力が必要とされる。これは容易なことではなく、留学生が日本語学習のリソースをインターネット上に求めたとしても、自己の学習に有益な情報をうまく選ぶことができなければ、リソースを学習に効率的に生かすことはできない。そこで、本学で学ぶ留学生に必要な情報がサイトによって一括して提供されていれば、留学生にとっての利便性が高くなるだろうというねらいのもとで開設したのが、RAICHO サイトである。本稿では、RAICHO サイトの2007年度の整備状況等について報告する。

2 2007年度 RAICHO サイト整備状況

RAICHO サイト内の「日本語自己学習」コンテンツには、多肢選択式あるいは回答記述式の問題が作成できる問題作成システムが整備されている。このシステムでは、出題する問題にテキスト、画像ファ

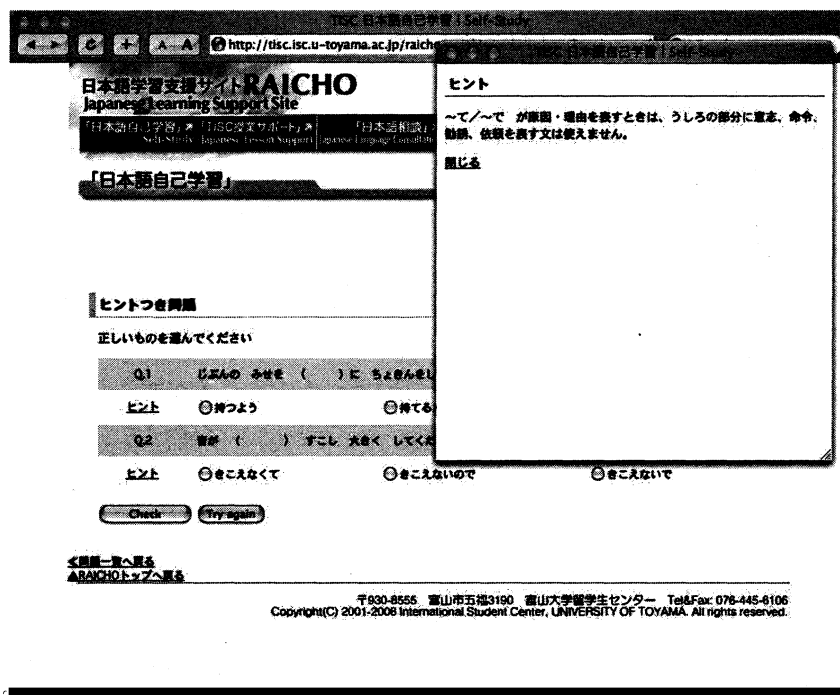


図1 クイズ メイン画面とヒント表示画面

イル、音声ファイルが使えるようになっており、現在、このシステムを用いて作成したひらがな、カタカナ、漢字、助詞などの問題が RAICHO サイト上の「日本語自己学習」コンテンツで提供されている。2007 年度には、この問題作成システムの機能を拡張し、問題を解くためのヒントが表示できるようにした。

また、今年度、センター教員が、全学の e ラーニングタスクチームが主催するコンテンツ開発支援費（学長裁量経費）の配分を受け、日本語学習者向け漢字学習サイトを作成しているが、このサイトでも RAICHO サイトの問題作成システムを利用したクイズコンテンツが提供されている。

3 利用状況と今後の展望

RAICHO サイトは開設から約 5 年が経過した。引き続き、学内のみならず学外からも「サイトを利用している」という声が寄せられている。特にひらがな、カタカナの学習コンテンツについては、アメリカやタイなど海外の機関からも利用されている。また、「日本語自己学習」コンテンツのユーザ登録者数も 2007 年度末で 268 人となり、着実に利用者が増え、「日本語相談」の「小論文の書き方コース」に登録してサイトを利用している留学生も少しずつではあるが増えてきている。

問題作成システムの整備も年を追うごとに進み、このシステムを利用して、いろいろな内容のコンテンツを提供できるようになってきた。コンテンツも少しずつ増えてきてはいるが、本学で学ぶ留学生に適したコンテンツの開発や、留学生センターの日本語プログラムの内容に準拠した形での体系的なコンテンツ開発は、まだ十分になされているとは言えず、今後はより有効なコンテンツの開発が重要な課題と言えるだろう。

RAICHO サイトは、利用者も増え、またシステムも徐々に整備され、利用の幅が広がってきている。富山大学は三つのキャンパスを有しており、本来ならばどのキャンパスにおいても同様の日本語教育が提供されることが理想ではあるが、留学生数の違いやキャンパスごとの事情などもあり、同内容のサービスを提供するのは難しいという現状がある。そのような状況の中で、RAICHO サイトを有効に活用することによって、授業として提供されている日本語教育のサポートが可能になると考えられる。そのためには、サイト全体の利用状況等を分析しながら、本学の留学生に適したコンテンツや授業内容とも連動した形のコンテンツを提供していくとともに、機能の面でもさらなる充実化をはかっていく必要があるだろう。